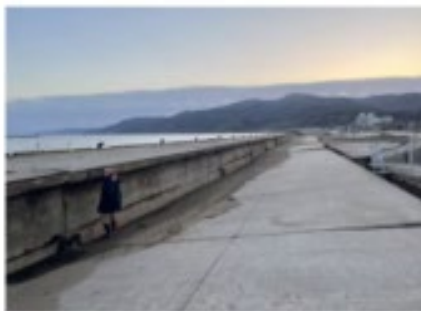


○令和6年1月2日、現地からの写真、設計図書等から国総研・港空研において、総合的に当該施設の利用可否判断を実施。

輪島港



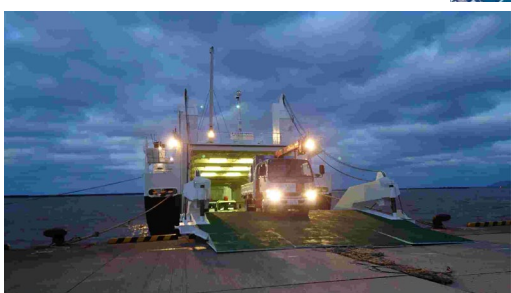
【マリンタウン岸壁(水深-7.5m)】
・背後段差、法線ズレ



調査結果概要

- 1) 全延長にわたって、岸壁法線から約13m背後に、50cm～2mの段差が生じているが、一部に段差すりつけの仮設道路を設置したことにより、岸壁まで車両の進入が可能。
- 2) 地震に伴う地盤隆起により、1～1.5m程度浅くなっている状況。
- 3) 被災により、西から7基目の防舷材は落下、西から9・10基目の防舷材は損傷しているため、注意すること

「フェリー粟国」入港時の様子



岸壁(-7.5m)
被害状況



※国土交通省港湾局のホームページで主な港湾施設の利用可否情報を公開しています。

(URL) https://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_mn7_000018.html

参考

- 1月4日、北陸地方整備局により岸壁応急復旧（仮設道路築造）を実施。
- 1月4日、海上保安庁「巡視船さど」が給水支援のため入港。
- 1月7日、海上自衛隊「多用途支援艦ひうち」が災害支援物資の運搬をするため入港。
- 1月10日、公益財団法人日本財団が手配した「フェリー粟国」が災害支援物資の運搬をするため入港。

○令和6年1月3日、TEC-FORCEにより現地調査を行うとともに、国総研・港空研において、設計図書等を基に当該施設の利用可否判断を実施。

・1月3日(高度技術指導班: 国総研1名)

七尾港

【矢田新岸壁(水深-7.5m)】

・岸壁法線の状況



・エプロン沈下(0.5m)



「海翔丸」入港時の様子



岸壁(-7.5m)
被害状況



調査結果概要

- 1) 慎重に接岸させること。
- 2) 陸側から海側への強風等による牽引力に注意し、栈橋上部工の変位発生等異常が見られた場合には速やかに離岸すること。
- 3) エプロン部及び渡版部(あわせて岸壁法線から約11m程度)には重量物を載せないこと。

※国土交通省港湾局のホームページで主な港湾施設の利用可否情報を公開しています。

(URL) https://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_mn7_000018.html

参考

○1月3日、海上保安庁「巡視船のと」が給水支援のため入港。

○1月5日、九州地方整備局「浚渫兼油回収船 海翔丸」が災害支援物資の運搬をするため入港。

○令和6年1月3日、TEC-FORCEにより現地調査を行うとともに、国総研・港空研において、設計図書等を基に当該施設の利用可否判断を実施。

・1月3日(高度技術指導班：港空研1名)

岸壁(-4.5m)
・エプロン背後沈下



調査結果概要

- 1) 入港時、港内の水域の漂流物・沈降物等に注意すること。
- 2) 岸壁前面水深が最大1m程度浅くなっている状況。

※国土交通省港湾局のホームページで主な港湾施設の利用可否情報を公開しています。

(URL) https://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_mn7_000018.html

「豊島丸」入港時の様子



提供：豊島丸

参考

○1月5日、NPO法人ピースウィンズ・ジャパン「豊島丸」が災害支援物資の運搬をするため入港。